



第14回バリアフリー推進勉強会in関西

**オールジェンダートイレ
/ 男女共用トイレ
をとりあげた背景**

奈良女子大学 室崎千重

性の多様性



LGBTQ

Lesbian

レズビアン（女性同性愛者）

Gay

ゲイ（男性同性愛者）

Bisexual

バイセクシュアル（両性愛者）

Transgender

トランスジェンダー（生まれたときに法律的／社会的に割り当てられた性別とは異なる性別を生きる人）

Queer, **Q**uestioning

の頭文字

クエア、クエスチョニング

性的マイノリティはLGBT以外にも多様なアイデンティティの人がいる
LGBTQ+、LGBTs、LGBTとも表現される

性的マイノリティは約3%-10%程度（各種調査により差がある）

性の多様性



SOGI ソジ, SOGIE ソジエ

Sexual **O**rientation 性的志向・好きになる相手の性

Gender **I**ntity 性自認・自分の性をどう認識するか

Gender **E**xpression 性表現 服装や髪形など性別についての表現
の頭文字

すべての人が持っているそれぞれの性的指向、あるいは性別に対するアイデンティティーを意味するため、この言葉を使うことで、性的なあり方の問題をあらゆる人が「自分の問題」として捉えることができる



奈良女子大学 2020年4月トランスジェンダー学生の受入れ

- ・ トイレ、更衣室などハード面の整備
- ・ 学生への意識調査、学生間での話し合い

- ・ ・ ・ そもそも、自分が知らない、ことに気づいた
- ・ トランスジェンダー学生への配慮（環境整備、心理面）
- ・ 在学生の不安（男性を避けて女子大を選んだ学生もいる）

誰もが気兼ねなく使える環境整備を進めるために、
当事者のニーズを知る、変わることへの不安にも対応する必要

知ること

この10年、さまざまな主体による調査

- ・厚生労働省「職場におけるダイバーシティ推進事業報告書」 2019年
- ・国立社会保障・人口問題研究所（協力：大阪市）「大阪市民の働き方と暮らしの多様性と共生にかんするアンケート」 2019年
- ・電通ダイバーシティ・ラボ「LGBT調査2018」「LGBTQ+調査2020」
- ・LGBT総合研究所「LGBT意識行動調査2019」 2019年
- ・名古屋市総務局総合調整部男女平等参画推進室「性的少数者（セクシュアル・マイノリティ）など性別にかかわる市民意識調」 2018年
等 各自治体での調査も増えている
- ・ TOTO 「性的マイノリティのトイレ利用に関するアンケート調査」 2018年
- ・ LIXIL・特定非営利活動法人 虹色ダイバーシティ性的マイノリティのトイレ問題に関するWEB調査 2016年
- ・金沢大学・LIXIL・コマニー「オフィストイレのオールジェンダー利用に関する研究会」調査結果、2017-2018年

性的マイノリティの人たちの、トイレでの困りごとは多い

ハード面の整備

- 少しずつ取り組みがはじまっている

- ・ 2020東京オリンピック・パラリンピックもひとつの契機

・・・どんな整備をすればいいのか？

- 機能を詰め込んだ多機能トイレ → トイレの機能分散へ
これからのトイレの整備で、性的マイノリティの方も
気がねなく使えるトイレへの配慮・工夫を実装する

第14回勉強会では・・・

- 性的マイノリティの人たちの困りごと、ニーズを知る
 - ・ TOTO株式会社 佐藤氏
 - ・ 当事者として 塩安氏
- 整備事例から配慮・工夫を知る
 - ・ TOTO株式会社 佐藤氏
 - ・ 国際基督教大学 加藤氏
- 今後の整備を考える
 - ・ パネルディスカッション